

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

0000 0773

秘

昭和十七年一月

滿鐵製造對策ニ就テ

将来、滿鐵製鐵方策ニ就テ

一 吾社鐵鋼増産、擴充計畫遂行ニ伴ヒ滿鐵製鐵ノ需要ハ必然的ニ増加スベキヲ以テ之ガ對策ヲ講究シ置カントス
 日鐵社内、滿鐵製鐵需要見込算定、基礎トシテ吾社ノ鐵鋼生産ヲ次、如ク想定ス

作業所名	現在生産能力(万觔)	擴充予想能力(万觔)	計(万觔)
八幡	二二五	七五	三〇〇
唐烟	五〇	五〇	一〇〇
翰西	五〇	五〇	一〇〇
奉天	六〇	一	六〇
兼浦	一五	一	一五
大坂	一五	一	一五
清津	一	五〇	五〇
外地	一	二〇〇	二〇〇
計	四一五	四二五	八四〇

特殊鋼(電炉鋼)	總計
一五	四三〇
二五	四五〇
四〇	八八〇

斯クノ如ク平炉及転炉鋼並ニ電氣炉鋼合計八八〇万觔ヲ生産スル時ハ之ニ要スル滿鐵製鐵及平炉装入滿鐵鑛石ハ次表ノ如クナル

平炉及転炉鋼塊生産	鋼生産高	滿鐵製鐵需要量	平炉装入滿鐵鑛石
八四〇万觔	六七、二〇〇觔(八觔)	一〇〇、八〇〇觔(十觔)	
電炉鋼塊生産	四〇〇	二、〇〇〇觔(五觔)	
計	八八〇	六九、二〇〇	一〇〇、八〇〇

即チ 滿鐵製鐵需要量 六九、二〇〇觔
 平炉装入滿鐵鑛石 一〇〇、八〇〇觔 (A)

ヲ要ス 右滿鐵製鐵需要量ニ對シニ五觔ノ滿鐵鑛石ヲ引当テル時ハ 必要滿鐵鑛石 一七三、〇〇〇觔トナリ

結局鉄鋼用トシテハ

滿鐵鑛石總計要量(A+B)

二七三、八〇〇 吨
大約 二八〇、〇〇〇 吨

右ノ如ク大約二十八万吨ヲ確保セサルベカラズ

(三) 滿鐵製鐵設備

(一) 昭和十六年度ニ於ケル吾ハ滿鐵需要量 約二六〇、〇〇〇 吨

自製量(於本邦鑛石計) 約一〇、〇〇〇 吨

差引社外ヨリ購入量 一六〇、〇〇〇 吨

右ノ如ク其ノ大半ヲ社外ニ依存スルヲ以テ其供給頗ル不安定ニシテ技術上ニモ不利ナルヲ免ガレサレバ、八幡ニテ高炉ニ依リ自製セントスル状況ニアリ

之ノ対策トシテ差引三、〇〇〇キロ電氣炉三基ヲ増設スルヲ可トス

(四) 將來滿鐵製鐵要量(一年) 六九、二〇〇 吨

六ニ要スル電氣容量及基數 三、〇〇〇キロ十二基

右ノ如ク計要滿鐵製鐵ヲ全部自製センニハ、三、〇〇〇キロ電氣炉十二基ヲ要スベシ

斯種合金ノ全供給ヲ社外ノミニ依存スル事ハ現在ノ状況ヨリ見テ誠ニ不安アルヲ以テ

總計要量、約八割 五五、〇〇〇 吨 (A)

ヲ自家自給スル目標ヲ樹テ之ノ計画ヲ進ムル要アリト思考

サレ
現在本邦鑛石ノ能力

電氣容量及基數 一、〇〇〇キロ 一基
三、四〇〇 " 二基

生産能力 一〇、〇〇〇 吨 (B)

差引最限度確保量(A-B)

四五、〇〇〇 吨

即チ四五、〇〇〇 吨ノ生産設備ヲ要ス之ニ對シ設置スベキ

電気炉ハ

電炉容量

三、〇〇〇キロ

同 基 数

八 基

、特設ヲ想定スレハ足ル計算ナリ
尚特設ハ基ノ内差ナリ三基ヲ設置スル時ハ現在ノ鋼生産ニ
對シ自給自足可能ナリ他ノ五基ハ將來ノ計画ニ併行シテ
設置スレハ足ル

(三) 電炉設置計画

設置候補地トシテノ必要條件ハ

- (イ) マンガン原産、コークス其他諸原料獲得ニ比較的便利ナル地方
 - (ロ) 電力ノ供給豊富且ツ低廉ナル地方(不定时ニテモ可)
 - (ハ) 電炉鋼滓利用ニ便利ナル地方
 - (ニ) 圧延設備其他電力消費ノ大量ナル計画
- 設置條件ノ第一タル原料取得ノ容易ナルコト即チ石灰石コークス
(又ハ燐燐)入手ノ便利ナルハ銑鋼(母材)作業ヲ行ヘル工場ニ不
如滿庵銑石ハ主トシテ中、南支、佛印、印度等ニ依存スルノ
外ナキト見レハ朝鮮、内地何レニテモ五十歩、百歩ニシテ

以下列記スル理由ニヨリ兼浦、釜石ヲ高弟ナル候補地トシテ挙ゲ
得可シ

(イ) 電力トシテ自家発電又ハ賣電ノ比較的豊富ナル計画トシテ
モ兼浦、釜石ハ其條件ヲ満足ス

(ロ) 滿庵銑製造ノ際生成スル銑滓(マンガン含百分之以上含有)

ハ短時日ニ利用セザレバ風化シ運搬上利用上共ニ不利ナルヲ

以テ電炉ハ高炉ヲ備フル工場ニ設置スルヲ便トス

兼浦、釜石ハ又此ノ條件ヲ満足シ得ベシ

尚在鮮工場ニテハ複雑ナル作業ヲ行フ技術工員ノ養成ニ難矣
アルヲ以テ合金銑製造ノ如キ比較的簡單ナル作業場ヲ併置セ
バ動力燃料費カヲ綜合的ニ活要セラルト同時ニ前記難矣
ヲ緩和スル一策トナル

(四) 滿庵銑資源ノ確保

表細匙者約三二町(装入精銑用及合金製造用合計)ノ滿庵
銑石ヲ要スル見込ナレバ將末日滿支ヲ通シテ二十万噸程度ノ

鋼塊ヲ生産スルトセバ斗々六四万噸ノ滿庵鉱ヲ消費スルコト、尤
 社ニテハ第一項末尾ニ記シタル如ク鋼八八〇万噸生産ニ對シ約六
 万噸ノ滿庵鉱石取得ヲ要ス、故ニ積極的ニ中、南、北支ノ邊
 際調査ヲ行フハ勿論、早急ニ選鉱法ノ研究ヲ定意シ最近並
 支馬伸橋附近ニ發見セラレタル食滿庵鑛床並ニ之ト同種ノ
 モノハ發見次第選鉱操作ニ依リ利用スベク之ガ恒入策ヲ講
 セサル可カラズ

已ニ半島ニテハ滿庵分一五乃至二五%ノ如キ貧鉄処理ニ致シ千萬噸
 ノ調査研究費ヲ投ジ滿庵鉄年々約六〇万噸(鋼)ノ年産八
 四〇万噸(鋼)起リ七噸消費)ノ大量生産ニ狂奔シツ、アルニ鑑ミ
 テモ資源ノ貧弱ナル吾邦ニ於テハ連ニ其ノ開發策ヲ樹テ之ガ
 實施ニ移スノ要アリト思料ス

〔滿庵鉄製造設備費概算〕

八基ノ電炉(第三項末尾参照)ノ内五基ヲ兼ニ浦ニ、三基ヲ釜石ニ
 設置スルモノトシ、左ニ其建設費ノ概算ヲ試ミ、タリ、
 鋼鋼一貫工場

ニ於テハ不定时全割電力ノ利用並ニ自家發電能力ヲ極度ニ發揚
 セハ其ノ實現ハ容易ニシテ社外買電ハ兼ニ浦ニ於テハ鴨緑江水豊
 水電ヲ、釜石ニテハ東並水電ノ配電計畫確定ノ途ニアル現況ニ
 鑑ミ連ニ買電契約ヲシテ時来策ヲ講ル事、次ノ如クセントス

(一) 釜石配電計畫ニ於テハ計畫

第一期計畫 現在一、〇〇〇キロワツヲ三、〇〇〇キロワツ能力ニ増加セハ
 炉及変圧器關係、外建築基地ニ要スル資材
 ハ輕クニシテ效果的ナリ

第二期計畫 三、〇〇〇キロワツニ基テ増設ス

(二) 兼ニ浦配電計畫ニ於テハ計畫

第一期計畫 先ツ第一期ニ三、〇〇〇キロワツ電炉ニ基テ設置セントス

第二期計畫 三基増設ヲナス
 但シ第一期計畫ニテ炉能力約三、〇〇〇キロ
 以上トセハ其基較ク減ジ得ベシ

(八) 釜石第一期設備費概算

- (1) 三〇〇〇キロ電気炉 一基 三〇〇,〇〇〇
- (2) 同変圧器其他附属品 一式 一四〇,〇〇〇
- (3) 既設電気炉取除及附帯設備 一式 一〇〇,〇〇〇

合計

一八〇,〇〇〇

(九) 釜石第二期設備費概算

- (1) 三〇〇〇キロ電気炉(電気品共) 二基 三四〇,〇〇〇
- (2) 建家 一棟 八〇,〇〇〇
- (3) 起重機 三台 一五〇,〇〇〇
- (4) 附属設備 一式 九〇,〇〇〇

合計

六六〇,〇〇〇

(十) 兼三浦第一期設備費概算

- (1) 三〇〇〇キロ電気炉 二基 六〇,〇〇〇
- (2) 同変圧器其他附属品 一式 二八〇,〇〇〇
- (3) 五起起重機 二台 一〇〇,〇〇〇

(十一) 兼三浦第二期設備費概算(二期、拡張)

- (4) 建家(鉄骨トキチ葺八〇〇平米) 一棟 一三〇,〇〇〇
- (5) 原料處理及貯蔵設備(三〇米高生一五設備) 一式 五〇,〇〇〇
- (6) 貯石倉庫(木造二〇〇坪) 一棟 二〇,〇〇〇
- (7) 鋸屑ストック設備 一式 五,〇〇〇
- (8) 詰込及工欠休憩所(木造一〇〇坪) 一棟 二五,〇〇〇
- (9) 附属運搬設備 一式 五〇,〇〇〇
- (10) 附帯設備 一式 五〇,〇〇〇

合計

七七〇,〇〇〇

- (1) 三〇〇〇キロ電気炉 三基 九〇,〇〇〇
- (2) 同変圧器其他附属品 一式 四二〇,〇〇〇
- (3) 五起起重機 二台 一〇〇,〇〇〇
- (4) 建家(延長八〇〇平米) 一棟 一六〇,〇〇〇
- (5) 原料處理及貯蔵設備 一式 五〇,〇〇〇
- (6) 附帯設備 一式 五〇,〇〇〇

合計

八七〇,〇〇〇